

ふくしま県人会だより

第53号
令和8年8月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会会長

あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 渡辺 健治



第五十四回福島県人会連合会総会が五月三十日に千歳・札幌県人会共催のもと、定山溪温泉鹿の湯で開催されました。総会では、令和七年度事業報告及び決算報告と、令和八年度事業計画及び予算案が承認されました。総会及び懇親会には、来賓として母県から鈴木正晃副知事、矢吹貢一県議会議長はじめ来賓の皆様にご出席を賜り、厳粛の内にも

楽しく盛大に本年度の総会を終了させていただきました。

また、長年にわたり県人会の発展と活動にご尽力賜りました、札幌県人会清野昭一様に県知事感謝状が、函館県人会笹原志郎様に連合会会長表彰が贈られ、贈呈されたお二人には今後とも県人会の運営にご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、福島県は今年で東日本大震災から十五年が経過しました。私ども各県県人会は母県の応援を微力ながら継続してきたところであり、県知事のもと県民が一致団結して復興に取り組み、いまだ道半ばとはいえ必ずや復興を成し遂げ、希望に満ち溢れた新しい「ふくしま」を築き上げていくものと確信しております。

一八七六年（明治九年）八月二十一日「旧福島・磐前県・若松県」三県が合併し、現在の福島県が誕生して百五十年目の節目の年でもあり、震災や原発事故の印象が強い中で、「復興の現在地」「再生エネルギー

ー・農業・観光などの新しいチャレンジ」をまとめて見せられるタイミングが百五十周年と位置づけ、母県では官民ネットワークを組み、企業・自治体・団体と一緒に事業を展開することで「支援される福島」から「選ばれる福島」へ県をあげてのプロジェクトを実施中であり、私たち連合会は母県の更なる復興・発展に継続的に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

おわりに、今年は連合会事業として第十六回母県訪問を十月から十一月頃に、四年毎に開催される第五回うつくしま県人会交流会が東京で十月に開催が予定されていますので、会員皆様のご参加をお願いし、北海道福島県人会連合会はこれからも会員皆様とともにできる限りの応援を続けていく所存であります。会員皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

連合会の活動

第五十四回福島県人会北海道連合会総会が開催されました

第五十四回福島県人会北海道連合会総会が、札幌市の「定山溪温泉・鹿の湯」で、五月三十日（土）から三十一日（日）に開催されました。

鈴木福島県副知事をはじめとした多数の来賓をお迎えし、道内各県人会から会員の皆様等、合計四十七名が出席しました。

総会では、事業計画や収支予算が承認されました。式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会長からの感謝状が贈られました。

【感謝状受彰者】

福島県知事感謝状

清野 昭一 様（札幌）

福島県人会北海道連合会会長感謝状

笹原 志郎 様（函館）

※代理…島函館県人会長



【感謝状贈呈の様子】

懇親交流会では、全国新酒鑑評会で金賞を受賞した福島県産日本酒等を味わいながら、母県の思い出話に花を咲かせるとともに、来賓の方々と交え、会員同士の交流を深めました。

また、札幌福島県人会の皆様により「福島県観光クイズ」をお出しいただき、母県を懐かしく思い出しながら、にぎやかにクイズに興じました。最後には輪になって「故郷」を合唱し、大盛況の中、会を終えました。会場では、会場では、再会の喜びを分かち合う会員の皆様の笑顔が溢れていました。



【写真撮影の様子】



【「故郷」の合唱】

会長就任あいさつ

旭川福島県人会

会長 圓谷 清



令和八年三月の総会にて、旭川福島県人会佐藤貞夫会長の後任として会長を引き継ぎました圓谷清と申します。まだまだ未熟者ですが、役員会員様のご協力を頂いて県人会の為に精進して参りますのでどうかよろしくお願いいたします。

私は福島県郡山市田村町阿武隈山系蓬田岳の麓の実家で生まれました。実家は今でも蓬田岳からの伏流水の水道水生活で、これまで夏の水枯れ無く、冬は凍結防止でチョロチョロ出しですが水道代0円です。自然豊かな地域で山間部の「ポツンと一軒家」といったところで高校卒業まで育ちました。

旭川福島県人会は昭和四十年四月一日に道内では七番目に設立され、会員数の多い時期で八十四名超の名簿があり、盛んに行事活動がされていたと聞いています。私の入会は平成十六年ですが、当時の総会出席者は四十名と盛会でした。観楓会では温泉入浴付きの送迎バスで一日旅行があり思い出がたくさんできました。

これまでの当県人会活動状況は、総会・連合会総会・ミスビーチ歓迎懇親会・観楓会等ですが、当県人会会員は基より、ペーパン福島県人会・ペーパン福島踊り保存会の皆様のご協力を忘れてはならないと思っています。各行事ごとに相互に参加させていただき、特に連合会総会懇親会の旭川担当時は、ペーパン福島踊り北海盆踊りのご協力で、会場が大きな踊りの輪になり盛会にしていたいただきまして心から感謝しております。

現在の状況ですが、会員数の減少により単独での行事が難しいところではありますが、令和五年度から総会後、旭川宮城県人会との合同懇親会を行っています。

また、観楓会では昨年からは旭川山形県人会主体の「芋煮会」に、福島・宮城両県人会が参加させていただき、お世話になりながらなんとか行事を進めている状況です。

このような行活動状況ですが、入会員の増員に努力して参りますので、今後とも旭川福島県人会にご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

会員通信

会津藩士を悼み

傷心惨目碑前祭を開催

函館福島県人会

副会長 佐藤 郁夫

函館福島県人会では、さる五月九日、函館西部地区にある高龍寺において、恒例の傷心惨目碑前祭を開催しました。幕末の箱館戦争において、医師高松凌雲が幕府軍の傷病兵を治療していた高龍寺に対して、新政府軍が攻撃をしかけて多数の会津藩士などの命を奪いました。「傷心惨目碑」は、その霊を弔うため、箱

館戦争のほとぼりが冷めた明治十三年に、旧会津藩士たちが建てた慰霊碑です。

今年の碑前祭には、福島県北海道事務所植田所長、函館宮城県人会今野会長をはじめ、二十九名という例年になく多数の方が参加されました。泉下の会津藩士たちもさぞかしびっくりしたのではないでしょう。これは、市内の詩吟団体「錦城会」から道南本部長竹崎様・函館支部長竹内様など十五名もの会員が参加され、白虎隊士と医師高松凌雲の霊に捧げる詩吟二題を朗々と奉納していただいたためです。さらに、谷地頭地区にある旧幕府軍兵士を祭った「碧血碑」の保全管理を続けている「碧血会」からも事務局長福島様など二名のご参加いただきました。

その後、五稜郭・魚来亭での昼食会には二十一名が参加し、美味しい料理に舌鼓を打ちながら親交を深め、大いに盛り上がりました。今後、これら団体や東北他県の県人会との交流を維持・拡大しながら、函館福島県人会活動の充実を図ることとしており、手始めに、六月の碧血祭には島会長・佐藤事務局長が参列したほか、会員に対して一十月開催予定の錦城会公演への参加を呼び掛けています。



【傷心惨目碑前祭】

嬉しかったお話

旭川福島県人会

高木 厚子

七月二日にと突然福島からのお客様さんが御座いました。その方は、二〇一六年と二〇一七年にミスピーチに同行された方です。福島県くだもの消費拡大委員会のメンバーで、JAふくしま未来伊達地区の方々、全農福島の方々、伊達市長さん等といらっしゃいました。旭川でもホテルで歓迎会を催してミスピーチと写真を撮ったり、福島弁での会話が懐かしく話にはなを咲かせたり、楽しんだ思い出があります。残念ながら、コロナ禍以来旭川での交流会は無くなってしまいました。その方は、息子さんが北海道大学に入学され、夏休みに福島から車で送って来られたときに旭川まで訪

ねて下さってお会い出来ました。その後は、桃・あんぽ柿などを送っていただけてお付き合いが続いております。七月二日には、九時三十分（十二時まででしたが、コーヒー店でお話をし、旭川ラーメンを食べて短い時間でしたが何年かぶりにお会いできました。その後、全国の米改良協会の方々と合流されて団体で視察をし、三日には福島に帰られました。また、福島に帰った時にお会いできるのが楽しみです。



【ミスピーチと高木様】

苫小牧県人会の活動の現況について

苫小牧福島県人会

吉成 彰

苫小牧福島県人会の創立については、「連合会だより」第四十八号（設立五十周年記念号）で掲載されたとおり二十三番目の県人会として連合会に加入し、故郷を想う会員との絆を大切に、親睦を深めて参り

ました。

私が、入会したのは平成十九年二月の総会からでした、当時の会員数は男性三十一名、女性十四名の計四十五名（現在三十四名）です。毎年八月上旬の三日間に行われる「とまこまい港まつり」において、香り豊かで甘みと酸味のバランスが良い福島県産の桃「あかつき」をメインに桃ジュース「桃の恵み」も販売し、福島県のPRを実施しており、また、当県人会の活動の柱として予約を含めて毎年市民からも大盛況で、活気あふれるイベントとして根付いています。

次に、新型コロナウイルス感染の影響もあり、「外にでられず」、「人との会話もできず」今まで経験のないストレスを抱える中で、何かできないか模索しているところ、「外だつたら感染のリスクもすくないよね・・・」との提案があつて、会員にパークゴルフを募ったところなんと十名の会員が手を挙げてくれました。これが令和元年十月「パークゴルフをしよう会」が発足し、今年六月で二十二回を迎えることができました。自然の澄んだ空気に触れ、日頃の運動不足と会員の親睦を深めることが出来たと自負しています。今では、十五名まで増えて、五月から十一月頃まで（熱中症の予



【苦小牧県人会の皆様】

防から七月と八月は休み、毎月一回楽しんでおります。さらに、仲間から「冬も集まりたいね・・・カラオケはどうだろうね。」との声があり、相談すると、「マスク着用、マイク消毒、手消毒を徹底すれば大丈夫。」との意見で、恐る恐る始まったのが令和六年十一月、市内にある昼カラオケ店でのことでした。コロナも右肩下がり、徐々にマスクも取れ、会員十二名が歌手になった気分、毎月第二水曜日をカラオケの日と決める楽しんでおります。

我がルーツ福島に思いを寄せて
千歳福島県人会
佐々木 義朗

私は支笏湖にあります丸駒温泉旅館の創業家に生まれ、四代目館主として現在に至っております。曾御爺さんにあたる初代佐々木初太郎は明治三十年頃福島県の富岡町、夜ノ森から開拓者として北海道の地にやってきました。

元々土木技師でありました初太郎は、釧路の幣前橋をスタートに浦河の灌漑用水路の工事などを手掛け、明治三十五年から支笏湖の王子製紙第一発電所の工事に携わりました。発電所の工事が終わり福島に戻る予定だったのですが、持病である坐骨神経痛の病のため、調子が良くなつてからという事で病を治すことに専念しようとしたところ、アイヌの方に教えていただき、支笏湖の北岸恵庭岳のふもとに温泉が出るという話を聞き、船でこの地におたつたとのことです。大正四年十二月のことでした。湖岸を手で掘っただけで温泉が出るこの地を初太郎は「このように美しく、平和にあふれる地は見たことがない」と思い、この地で生涯を過ごす決意をし、丸駒温泉を開業し本年で百十一年目を迎えました。子供がいない初太郎

は二代目として姪の佐々木ヨシエを迎えましたが、ヨシエも子供を受かることができず、ヨシエの甥である佐々木金治郎を三代目として迎えました。金治郎が三歳の時でした。それが私の父になります。

母も富岡町の出身ですから小さい頃は冬の閉館時になると、よく実家の富岡や夜ノ森に行き、私にとつてみればふる里に帰ったような気持ちで楽しかった記憶があります。北海道にはいないカブトムシやホタル、カツオの刺身やどんこの煮つけなどはつきりと記憶に残っております。そのふる里が二〇一一年東日本大震災で無くなつてしまいました。自分の両親が亡くなつても涙一つ見せない父が「俺のふる里が無くなつてしまった・・・」と涙を流した時に、ふる里の大きさを知りました。

それ以来私は「こころのふる里・丸駒温泉」を宿のキーワードとして、迎え入れるお客様と接しております。私のふる里はここ丸駒温泉と福島県富岡町であり、残された人生を千歳福島県人会で活動してまいりたいと思います。福島に思いを寄せ、福島の更なる発展を願つて。

新会員の紹介

函館福島県人会

飯島 徳子 様 (下郷町)

初めまして。この度、函館福島県人会に入会させて頂きました飯島徳子と申します。南会津郡下郷町の出身です。故郷を後にして約六十年の月日がたち、函館に来てから五十二年目となりました。現在七十四歳でございます。菓子問屋に嫁ぎ、創業一〇三年という歴史を持ちながらも、世の流れの中で十二年前に会社を終わりにしました。今は、何とか楽しみを見つけながら、主人と二人健康に気を付けながら日々を過ごしております。

年を重ねるごとに故郷を恋しく思うようになり、そんな中、福島県人会の活躍を知り、何かの折にはお国なまりが聞けるかなと思い、知人に市議会副議長の島昌之さん(函館福島県人会会長)を紹介して頂き、入会させて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。



【飯島徳子様】

美幌福島県人会

小林 勲 様 (相馬市)

入会の経緯については、令和七年二月二十一日の第五十一回美幌福島県人会定期総会において、祖母が福島県出身とのことで入会しました。小林勲です。

私の祖母カ子は、故郷相馬市今田より明治三十三年四月、二宮尊徳の孫、尊親の「興復社農場」の第三期移住民として父母家族と共に、現豊頃町二宮に十一歳で渡道しました。祖父彌太郎は富山県西礪波郡西五位村出身で渡道後、祖母と隣接する幕別町五位、糠内の富山県五位団体を經由し、その後祖父と祖母は縁があり結婚し、美幌町へ移転しました。私は北海道三代目、六十一歳で長男に経営移譲しました。祖母の実家は現在帯広市南町にあります。

私と美幌福島県人会(昭和五十年五月設立)との出会いは、第三十六回の北海道福島県人会連合会総会(網走市ホテル網走湖荘)平成二十年五月二十四日開催時に、当時の土谷耕治町長と私が招待を頂き参加したのが採取の機会でした。

福島県知事、議長、県関係者、北海道福島県人会事務局、高橋文明道議など参加の中、私の祖母(相馬市今田出身)渡道の経緯を含め挨拶さ

せて頂いたことに始まります。このとき高橋文明道議も会津出身のことで、その後美幌福島県人会にも共に参加させて頂いております。

結びに当たり、北海道福島県人会、美幌福島県人会が末永く活動できます事と、ご参会の皆様のご健康とご多幸とご活躍をご祈念申し上げます。入会のご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【小林様 美幌フェスティバルにて】

美幌福島県人会

吉田 千鶴子 様 (伊達市)

北海道の地に着き、色々な手続き等に追われておりました処、県人会の忘年会に声がかかり出席しました。緊張の中私に優しく声をかけて下さる方がおり、少しずつ緊張がほぐれた事が思い出されます。いつのまにか夢中で過ごし、半年の月日が流れました。ご縁があり、美幌町は歴史ある明和大学に入学させて頂き、学びの一步を踏み出したところですが、無知な私が大丈夫なのか、

これも不安でいっぱいでした。不安だらけの中、引き道する事の出来ない船に乗ってしまったのではないかと思います。八十歳を目の前に新たな挑戦が出来る事もまた尊い事を、大学の校歌にあります様に「我らよわいを頂きて(歳を重ねる世を長く生きる)美幌の地にならんとぞ」の歌詞が私の胸に重たくもあり、ある意味では励みにも思えて参りました。たくさん仲間と一緒に学ぶ楽しみも徐々にふつふつとわいて来る自分を感じておる処で御座います。

私は七年前に夫が他界し、一人暮らしをしておりましたが、自分達の生きる地、家族共々移住という形を選択した息子の北海道に出来ないかという言葉。私も若くなくだいぶ悩みもしましたが、声を掛けてくれ、心配してくれる者の存在に有難うと返事をしました。

北海道は団体又は個人で旅行には数回来ている憧れはあれ、自分が実際に住むとは正直想像もしてませんでした。住めば都という言葉がありますように、実際暮らし始めて、関わらせて頂く皆さんどなた様も暖かく優しく接して頂き私の不安を取り除いて下さり、助けられました。このようにして息子達も多くの皆さんに助け支えられて今日に到

っている事、改めて深く感じさせられました。この場をお借りし御礼と感謝を申し上げます。新たな出会いを大切にしていきたいと思いますので、これからも何かとお世話様になります。これからもよろしく願います。



【吉田千鶴子様】

美幌町福島県人会

藤原 公一 様 (出身 郡山市)

福島県からのお知らせ

全国新酒鑑評会にて

福島県の二十銘柄が金賞を受賞、

二年連続金賞日本一

入賞三十二銘柄も日本最多

独立行政法人酒類総合研究所が開催している令和七酒造年度「全国新酒鑑評会」において福島県から三十二銘柄が入賞し、そのうち二十銘

柄が金賞に選ばれ、二年連続で都道府県別の「日本一」に輝きました。

今回の鑑評会において、福島県は金賞受賞数は、二位の新潟、長野両県の十六銘柄、四位の兵庫県の十四銘柄を大きく上回る結果でした。また、金賞を含む入賞数は三十二銘柄で、こちらも全国最多となり、福島県の日本酒の品質の高さを改めて示す結果となりました。

近年は猛暑に伴う酒米の固さが課題とされておりましたが、県内蔵元のたゆまぬ努力と高い技術を結集し、「日本酒王国ふくしま」の名を響かせました。

福島県は平成二十四酒造年度から、全国新酒鑑評会における金賞受賞数日本一を九年連続で達成しており、全国でも有数の日本酒の産地であります。来年の新酒鑑評会でも、金賞受賞数日本一を継続できるように、「ふくしまの酒」を応援くださいますよう、よろしくお願ひします。

くだもの消費拡大委員会による もものPRが実施されました

令和八年七月十六日（木）から十七日（金）の二日間、北海道札幌市にて福島県くだもの消費拡大委員会による福島県産もものPRが実

施されました。

福島県からはミスピーチキャンペーンクルー（梅宮萌乃さん）をはじめ、主要産地である伊達市、全農福島県本部、ふくしま未来農業協同組合から、市長や幹部の方が各市場や関係機関を訪問し、旬を迎える福島県産もののおいしさをPRしました。

また、札幌市内量販店にて福島県産ももの試食販売を実施し、多くの方に福島のももの美味しさを知っていただくことができました。



【札幌市内量販店でPRの様子】

チカホでの福島県産もものPRイベントについて

令和八年七月三十日（金）から八月一日（土）の二日間、チカホ北大通交差点広場にて、福島県産もものPRイベントを開催しました。

今年は同時期に、札幌市内量販店を中心として、旬を迎えた福島県産「あかつき」の販売フェアを行ったため、イベントでは、果汁100%の桃ジュースや、期間限定の桃スイーツ、福島ご当地ポケモン「ラッキー」とのコラボレーション商品など、桃の加工品を中心に販売し、「フルーツ王国ふくしま」のPRと販売フェアの告知を行いました。

お客様からは、「福島のもものが好き」、「毎年福島のもものを買っている」などの嬉しいお声を多数いただきました。福島県出身者や、ご家族が福島県にお住まいの方など、ゆかりのある方も多くいらつしやいました。

二日目には、福島県公式観光PR隊「HAPPYふくしま隊」と福島県オリジナルキャラクター「ベコ太郎」が出演し、起き上がり小法師の絵付け体験や、福島県の食や観光の魅力を発信しました。



【HAPPYふくしま隊】



【ベコ太郎とのふれあい】

新任職員紹介

福島県北海道事務所

次長 高野 靖洋（福島市）

四月から福島県北海道事務所勤務となりました高野と申します。

初めて北海道にきたのは、大学二年生の夏のバイクツーリングでした。二輪免許（中型）取り立ての私は、中古バイクで東北を北上し、青森からフェリーで函館に上陸したのでした。いわゆる「ミツバチ族」で、当時はバイクで旅する若者が大勢いました。本州では見られない広大な景色と豊かな自然、また旅人に対して親切な道民の皆様に魅了され、それ以降もバイクで二回、家族と車で二回、北海道を旅行しました。この度、思い出深い北海道で勤務することができ、大変幸せに思っています。



【高野次長】

私は平成五年に農業技術職として、県職員に採用され、県果樹試験場でのものも、さくらんぼの試験研究や農業者への技術普及に主に携わってきました。また、転勤に伴い双葉郡富岡町、会津若松市にも併せて九年間住み、浜通り・会津地方の風土や人柄にも触れることができました。その中で、旧会津藩士が明治四年に余市町に入植し、苦勞の末、りんご栽培に成功したことを、会津のりんご栽培者が「誇り」に思い、熱く語ってくれたのが、印象的でした。このため、四月に赴任してすぐ、明治初期に植えられたりんご「緋の衣」の原木を余市町に見に行きました。

また、北海道において、福島県産のものもが市場の七割から八割を占めていることを知り、果樹王国ふくしまを始め、福島県の魅力をより多く北海道の皆様を知っていただけるように取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

福島県北海道事務所

主査 熊坂 江里子（福島市）

四月から北海道事務所勤務となりました熊坂と申します。

十年ほど前になりますが、福島県職員に採用されしばらく経った頃、異動の希望先を聞かれた際、県外にも事務所があるのだから、一度くらい県外で仕事をしてみたいと思い、県外事務所を希望した記憶があります。その時はいわき市に異動が命じられたため、まさか十年後に北海道に異動となると露とも思いませんでしたので大変驚きました。

私は福島市にありますが桜の名所「花見山」の近く出身で、県職員になってからも福島市といわき市で勤務をしておりましたので、夏は暑く冬の寒さはそこそこ、という環境で生きてまいりました。四月に札幌市に赴任してからは、北海道の涼やかな夏に感動しましたが、これからの本格的な冬がどのようなものか、心配半分楽しみ半分であります。今度皆様に会えた時に感想をお伝えできればと思います。

赴任する前の私の北海道の思い出は、小学生の頃、夏休みに家族旅行で函館市に観光に行ったのが最初で最後です。その時は小学生ながらに豊かな自然で遊ぶのが楽しか

った思い出があります。せっかく機会を得て、北海道に住むことができたので、時間をとって北海道各地を巡ってみたいと思っています。まだまだ行けていない土地が多いですが、美味しいものを食べるのも生きがいとしているので、皆様からぜひ、ここぞというおすすめスポットやグルメ情報を教えていただきたいです。

北海道事務所の一員として、福島の食や観光など、福島の魅力をお伝えしていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



【大空町メルヘンの丘にて】

編集後記

とまこまい港まつりに参加して

令和八年八月七日（金）から9日（日）の三日間、苫小牧市で開催された「とまこまい港まつり」に苫小



【とまこまい港まつりにて】

牧福島県人会が出店し、福島県産も等の販売を実施しました。北海道事務所の植田所長をはじめとする事務所員に加え、福島県庁県民聴室が来道し、販売のお手伝いと福島県の観光PRを行いました。

港まつりでの福島県産ものの販売を毎年楽しみにしているお客様も多く、開店前から連日長蛇の列ができ、開店間もなく売り切れる日もあるなど、大好評でした。

県人会の皆様が地域に根ざした取組を改めて拝見することができ、貴重な機会となりました。ありがとうございました。